地域おこし協力隊　第35回

興味本位とチョウザメと地域おこし

有坂　征志（ありさか　せいじ）

1996年９月生まれ、茨城県鹿島市出身。東京都新宿区で育ち、都内のアプリ開発系職に新卒入社後、2022年６月に美深町地域おこし協力隊に着任。チョウザメ養殖事業に従事の傍ら、町内、道の駅イベントにて「ちょうざめスティック（かまぼこ）」「ちょうざめハンバーグ」等のチョウザメ加工食品など販売を行う。

【協力隊の応募経緯】

大学卒業後、都内でITエンジニアとして働き始め、その頃はVTuberといわれる３Ｄモデルを操作するシステム制作を行っていました。展示会やイベント設営など業務は多岐（たき）に及び、さまざまな経験を積むことができましたが、その頃に、これから北海道に移住をすることになるとは思ってもいませんでした。ましてやチョウザメの養殖など考えたこともなかったのです。

なぜチョウザメ養殖に関わることになったのか、そして美深町に来たのか、その答えは簡潔に言えば「興味本位」と「勢い」でした。ＩＴエンジニアとしての仕事が３年目になり、仕事に区切りが付いたタイミングで転職を考えていた際に、これからもＩＴエンジニアを一生の仕事にするには自信がありませんでした。そのため気持ち的には人生の小休止、夏休み気分で地域おこし協力隊の募集を探したことを覚えています。

募集を探していた時期、北海道やそのほかさまざまな地域で畜産、とりわけ馬の生産などに興味を持ち、そういった募集がないか調べていたところ、「チョウザメ養殖」というあまりにも見慣れない項目が目に入り、ふと考えました。チョウザメ――といえばキャビア……程度しかない知識でこんな仕事に就けるチャンスは今後絶対にめぐり合うことはないのだろうなと、気が付けば興味本位で応募をしていました。

そのため、正直なところ応募した段階では北海道のどこに美深町があるのかもよくわからない状態で、チョウザメのことだけを考えてわくわくしていました。

【２年間の活動と生活に追われる日々】

2024年６月で協力隊３年目が始まったばかりですが、ここまで２年間を北海道で過ごした中で私のオリジナルの活動は多くありませんでした。１年目は慣れない環境、チョウザメの世話、車の運転、大雪、さまざまなトラブルが起きたことで生きていくのに必死でした。なるべく町内のイベントに積極的に参加をして、町民との繋（つな）がりを増やすように心がけていきましたが、これが活動と言えるものなのか、日々不安との戦いでした。チョウザメの飼育に携わる中で、養殖業ではできるだけ大きく育てるか、死なせないためにどういったことが必要なのかを考えていました。２年目になり、ふと道の駅のイベント時に販売されている「チョウザメフライ」を見ていて考えたのが、自分でチョウザメをおいしく食べる何かをもっと作れないかという

キャビアの加工・瓶詰も行っています

ことでした。そこから観光客がチョウザメを食べる機会を増やすために手作りで加工食品の試作を作り始め、私なりの活動が始まったのです。

まずチョウザメの卵、つまりキャビアは加工をするにはコストが高く、個人で扱うのは現実的でなく、お客様目線で見ても高級なイメージが先行して手が伸ばしにくい……そういったケースに陥る可能性が高いと考え、あまり世の中的には注目のされていない魚肉にフォーカスして、まずはチョウザメが食べられるというイメージを持ってもらうために、「手作りかまぼこ」を出してみることにしました。これが実に面白く、チョウザメ自体は白身で非常に淡泊な味わいなので、かまぼことの相性が良かったのです。また、作ったものを今まで知り合った町民、役場の人に試食してもらい、さまざまな意見を取り入れながら出来上がっていく過程は非常にやりがいがあり、その後の別の加工食品に活かされました。

現在ではチョウザメを使ったハンバーグやチョウザメの軟骨を活かしたせんべいなど試作も含めてＰＲに力を入れています。

考案した「ちょうざめステック」

【困ったこと】

これは端的に言えば、チョウザメについて何も知らなかったことです。もちろん事前にある程度調べてはみましたが、あくまで常識的な範囲内の内容であり、実際に美深町に来て飼育を続けていくことで、この品種は神経質、この品種は卵の色がきれい、魚肉の色味がきれいなどさまざまな品種のチョウザメがいました。品種がたくさんいるということもざっくりとしか知らなかった上に、美深町では複数の品種を掛け合わせたり、より北海道の気候に合った品種を育てるといった試みをしていました。いまだにチョウザメの顔やうろこの形を見ても確実にこの品種だ！と判断ができないので個人的には困っています。もちろん職場の先輩方は見ただけで判断ができるので、自分の観察眼の問題なのかなと悩んでいます（笑）。

またチョウザメの個体は大きいものになると２～３人、下手したら５人ほどでないと抑（おさ）えられないくらいの大きさになるものもいます。そのため、３年目になった今でもチョウザメのパワフルな暴れっぷりに悩まされています。

【将来の展望】

そもそもチョウザメの飼育に関して言えば、生まれてから卵を持つようになるのが10年前後かかってしまうので、協力隊の３年という任期の中でやり残すことは仕方がないことだと思っています。ありがたいことにチョウザメが終わったらうちにおいでよと声をかけてもらったこともありました。

将来的に自分自身が美深町に残ってやりたいことがあるのかと聞かれると、今のところはないのかなと感じています。残る理由がないというマイナスの意味ではなく、むしろ、自分がいざ美深町に残ったところで何ができるのか、そして美深町の発展に繋げられることがまだできないのではないのかと考えてしまうからです。美深町に残るまたは戻るには、より多くのさまざまな経験を積んでやりたいことができた時だと思っています。

今、チョウザメの養殖に少しでも興味があるならばぜひ美深町へ来てみてください。興味があればきっといい出会いや、楽しい仕事ができたりすると思います。ぜひ美深町でお会いできる日を楽しみにお待ちしております。

ぜひ、美深町へチョウザメを見に来てください！